

登録コード	L2432100		開講年度	2026			
担当教員	伊藤 尽			副担当			
授業科目	英語史 I						
英文授業名	An Introduction to Medieval English						
授業タイトル	中世までの英語の歴史入門						
単位数	2	対象学生	2 年次、3 年次、4 年次生	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・4 時限
講義室	人文第 5 講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2 0 2 2 Lカリ, 2 0 2 1 Lカリ						
	【2022年度以前カリ対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			⇔	英語についてこれまでの学習で抱いていた考えを払拭し、学問的に言語の歴史的な特性について理解し、人に説明できるようになる		
	【2022年度以前カリ対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力			⇔	様々な変化する英語という言語の本質について考察し、実証的かつ具体的に、自分の抱く考えを批判できるようになる		
	【2022年度以前カリ対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			⇔	こまでの学問的な遺産を継承し、今後の英語の在り方について意見を述べるができるようになる		
	2 0 2 6 Lカリ, 2 0 2 5 Lカリ, 2 0 2 4 Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			⇔	英語の通時的な特質について、実証的に論じることができるようになる		
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	比較言語学的知識と文献学的知識の基礎となる英語史の基本的な流れを説明できるようになることが目標である。 そのために、通時的言語学の根本的な考え方である「言語は変化する」という前提が、あらゆる言語現象にどのようにapplyできるかを授業を通じて「考える」ことが求められる。 講義の中では学生への質問が多く発せられるので、学生は事前に指定された文献を読み、理解していることが求められるわけである。その中で、質問に対する答えから、講義を広げたり、深めたりすることが可能となる。したがって、受講生には次の二つが求められる： (1) 自分の知っている言語学的な知識を総動員しながら講義に参加することが求められる。 (2) 参考文献を広く深く読み、講義内で説明された知識の裏付けを調べる。						
授業計画	1回：イントロダクション：英語史概観 2回：英語のルーツは何か？(1)：印欧語族としての観点 3回：英語のルーツは何か？(2)：ゲルマン語派としての観点 4回：英語のルーツは何か？(3)：英語史を通じて支配的な音韻変化の影響について 5回：英語のsubstantive：印欧語と古英語の名詞の格変化について 6回：英語の冠詞と指示詞：古英語に見る「冠詞」という神話 7回：英語の動詞：規則変化動詞と不規則変化動詞という神話 8回：古い英語は時代遅れだという神話：アルファベットは英語の文字ではなかった 9回：古い英語は時代遅れだという神話：現代に生きる古英語文献 10回：英語は簡単だから世界語になっているという神話:英語の語彙は覚えきれないという事実と英語の本来語 11回：英語は簡単だから世界語になっているという神話:英語の綴りと発音の秘密 12回：英語には未来形と完了形があるという神話：英語の語源はラテン語ではない 13回：シェイクスピアの英語は中世の英語というデマ：中英語の文献の文法と語彙 14回：中期英語ロマンスが持つ「中世英語」的特徴とは何かを考える 15回：中英語の方言：『ガウェイン卿と緑の騎士』とチョーサーの違いの大きさ ※最終講義の際に授業アンケートを実施します						
成績評価の方法	授業内の質問への答を10%、授業内の課題への答を10%、期末テストを80%として総合的に評価します。						
成績評価の基準	授業内の質問や課題の答はゼロサム方式。 期末テストは、問われた内容についてキーワードを4つずつ課すので、そのキーワードを適切に用いれば課題をクリアすると評価します。 満点(80)ならば卓越している キーワード12個分が適切に用いられている(60)ならばかなり上にある キーワード8個分が適切に用いられている(40)ならばやや上にある キーワード4個分が適切に用いられている(20)ならば水準にはいる それに満たない場合は不可と評価します。						
事前事後学習の内容	事前学習として参考文献をあらかじめ読んで授業に臨むことが望ましいです 事後学習は、授業で興味を覚えた事柄について自分で調べてみるが含まれます。セルフエヴァリュエーションとリアクションノーツの執筆もここに含まれます						
履修上の注意	セットテキストがなく、自分で自分の学習のために参考文献を読まねばなりません						

履修上の注意	その際に、図書館にあれば何でもよいわけではなく、授業内で紹介した参考文献を読むことが推奨されます もし紹介されていないくても、自分にとって興味深い内容を持った本を見つけた場合は、そのように連絡をしてフィードバックしてください また、講義へのフィードバックをコメントシートに書いて貰いますので、毎回の出席後に提出して下さい なお、野津先生の古典語、護山先生のサンスクリット語、磯部先生のドイツ語史の授業のどれか一つでも履修すると、この授業の内容がさらに深まります
質問、相談への対応	基本的に、リアクションペーパー（セルフエヴァリュエーション）によって受け付けます それ以外の内容についてはアポイントメントをとってください。対面もしくはZoomで対応します ※メールアドレスは信州大学アカウントの前にj-tksitoとなります
教科書	指定しません。授業内でプリントを配布することがあります。
参考書	Aitchison, Jean. 2013. Language Change: Progress or Decay?, 4th ed. Cambridge UP. 978-1107678927 Bauer, Laurie and Peter Trudgill, eds. Language Myths. London: Penguin, 1998. ISBN 978-0140260236 Baugh, Albert C. and Thomas Cable. A History of the English Language. 6th ed. London: Routledge, 2013. ISBN 978-0415655965 Bragg, Melvyn. The Adventure of English: The Biography of a Language. New ed. Sceptre, 2004. ISBN 978-0340829936 Crystal, David. 2011. Internet Linguistics. Routledge. ISBN 9780415602776 ----. 2017. Making Sense: The Glamorous Story of English Grammar. Profile Books: ISBN 978-1781256022 Freeborn, Dennis. From Old English to Standard English, 2nd ed. Basingstoke: Palgrave, 1998. ISBN 978-0-333691555 Jespersen, Otto. 1954. A Modern English Grammar on Historical Principles. 7 vols. Otto Jespersen Collected English Writings. London: Routledge, 2006. ISBN 978-0415402491, 978-0415402507, 978-0415402514, 978-0415402521, 978-0415402538, 978-0415402545, 978-0415402552 Hogg, Richard and David Denison, eds. A History of the English Language. Cambridge: CUP, 2006. ISBN 978-0521717991 Singh, Ishtla. The History of English: A Student's Guide. London: Hodder Education, 2005. 【邦文】 アルバート・ボー、トマス・ケイブル共著、永嶋大典訳『英語史（第3版）』研究社、1980。 安藤聡著『英文学者がつぶやく英語と英国文化をめぐる無駄話』平凡社、2022。 家入菓子、堀田隆一共著『文献学と英語史研究』最新英語学・言語学シリーズ21 開拓社、2023。 宇賀治正朋著『英語史』現代の英語学シリーズ8 開拓社、2000。 唐澤一友著『英語のルーツ』春風社、2011。 唐澤一友、小塚良孝、堀田隆一共著（2025）『英語語源ハンドブック』研究社 下宮忠雄著『歴史比較言語学入門』開拓社、1999。 寺澤盾著『英語の歴史：過去から未来への物語』中公新書、2008。 中尾俊夫、児馬修共著『歴史的にさぐる現代の英文法』大修館書店、1990。 メルヴィン・ブラッグ著、三川基好訳『英語の冒険』角川アーティストハウス、2004。 メルヴィン・ブラッグ著、三川基好訳『英語の冒険』講談社学術文庫、2008。ISBN 978-4061598690 H. ブラッドリ著、寺澤芳雄訳『英語発達小史』岩波文庫、1982。 堀田隆一著『英語史で解きほぐす英語の誤解：納得して英語を学ぶために』中央大学出版部、2011。 W. B. ロックウッド著、永野芳郎訳『比較言語学入門』大修館書店、1976。 その他、授業内でも紹介します。